

= 海外研修通信 = I'm possible

令和6年3月13日(水)
第1号
室蘭清水丘高校

令和5年度の海外研修は、2024年2月4日(日)~2月10日(土)の5泊7日でアメリカ合衆国ワシントン州シアトルを訪問しました。ただの研修旅行ではなく“心を揺さぶる”旅、普通なら会えない人に会い、行けない場所に行く、お金では買えない“世界の一流に触れる”旅です。

2月4日(日) «シアトルへ!»

10:40新千歳空港を出発し、羽田空港→成田空港を経由し、シアトルへ向かいました。海外研修の始まりです。シアトル到着後は、飛行機内に忘れ物(大切なもの)をするというトラブルがあったけれど、入国審査が例年になくスムーズに進み、予定していたより早く全員無事にアメリカへの第1歩を踏み出しました。初日はまず、シアトルに来たら必ず訪れるスペースニードル、ポップカルチャー博物館などを見学しました。『シアトルに着くと、上りの長いエスカレーターに乗った。窓から見える景色がワクワク感を増幅させた。』。『人生初海外で、本当にアメリカってあるんだレベルでウキウキでドキドキだった。』。『スペースニードル周辺のレストランや屋台などが日本と似ていて親近感が沸いた。』。『アメリカで初めての買い物をした。緊張してうまく話せずに困ったけど店員さんが優しく対応してくれた。』。今回コーディネーターとして研修をサポートしてくれたのは、アリアンさんとイザベラさんでした。アリアンは昨年までワシントン大学(UW)の学生で、去年の海外研修の時にUWのガイドをしてくれた人でした。その時の経験が楽しくてそのまま旅行関係の会社(GPI US)に就職したようです。去年の海外研修に参加した生徒が、アリアンの進路選択の大きな役割を担ったかもしれませんね。

夕方にスタディーセンターに移動し、アリアンによる研修中の注意事項などのオリエンテーションが行われ、イザベラが緊張をほぐすために体を使ったゲームをしてくれました。その間にホストファミリーが次々と生徒を迎えに来てくれて、それぞれの家庭へと連れて行ってくれました。

『ホストファミリーと初めて会って、車の中や夕食の時間にお互いの文化について話せてよかった。』。『ゴールデンレトリバーの Marty がとても可愛かった!』。『I am really excited to see my host family. They have two cats!』。

『緊張して上手く話せなかったりスピードに戸惑ったり、アメリカにいることを実感させられる日だった。』。『ホストファミリーに会うのが怖かったけど、優しく嬉しかった。』。

『ホストファミリーがショッピングモールに連れてってくれた。日本にはないものばかりで楽しかった。』。『せっかくお土産を持ってきても上手にコミュニケーションが取れなくて貴重な時間を無駄にしてしまったが、今思えばいい経験になった。』。『家では食べたいものが食べれて良かった。』。



2月5日(月) «デジペン工科大学、マイクロソフト社 訪問»

【午前】デジペン工科大学 (Digi Pen Institute) 訪問

デジタルアート・ミュージック、コンピューターサイエンス・ゲーム制作等を学ぶ大学。卒業後はマイクロソフト、任天堂、アマゾン等シアトルにある世界の大企業だったり、ピクサー等の映画製作会社に就職したりしているようです。英語を勉強しつつ、そちら方面を目指したい人には最適な大学だと思います。今回は担当の方から大学での活動内容や展示されている数多くの受賞作品の説明を受けたり、授業をやっている中を通り抜けたりしながら、校舎内を巡回しました。

途中でデジペンの学生が製作したゲームをすることもできました。また、3つの映画を見て、登場人物を言い当てたり、感想を言い合うという授業の一部もやっていただきました。『デジペンで、知っている日本にもあるゲームを見つけて感動した。』。『デジペンでは自分が知っているアニメ映画やゲームに携わっていてビックリした。』。『案内してくれた方が全部英語で、最初は難しく感じたけど耳が慣れてきた。』。



【午後】マイクロソフト社 訪問

担当の方の案内により、初期のころに製作されたPC等の実物から最新テクノロジーまでを見学しながらマイクロソフトの歴史と未来を学びました。その後、ゲストスピーカーとして日本人従業員(松本さん)に講演をしてもらいました。世界を代表するような一流企業で働く日本の方に直接出会って話を聞いたこと、講演の内容も含め、凄いい刺激になったと思います。松本さんは「自分が一方的に話しをするより、質問をしてもらってそれに答えた方がいいですね」と言い、途中から質問コーナーになりました。残り時間は約45分。慌てたのはアリアンとイザベラでした。2人の経験上“日本の高校生は質問をしない”からです。しかし松本さんは、質問コーナーの時間が終わってもまだまだたくさん質問してくる去年の生徒のことを覚えていてくれてこのようにしてくれました。生徒との質疑応答は40分以上続き、終わった後も質問する生徒もいました。質問内容は『日本と海外の職場の違い』『海外で働くためには』『好きなことと得意なことならどちらを仕事に選ぶ?』『仕事をするときに大切にしていること』『なぜアメリカ?』等この後もたくさん続きます。松本さんの答える一つ一つが、例をいくつか挙げて答えてくれたりしっかり深掘りされていて、答え自体もそうだけど“答え方(伝え方)”も勉強になったと思います。

『松本さんの話しを聞き、海外で働きたいと思った。』。『松本さんとお話をさせてもらったことで進路の幅が広がった。』。『松本さんの話しを聞き、先を見据える力も重要だと思った。職場の感じもあまり縛りがなさそうに見え、いいなーと思った。』。『マイクロソフトで天使と出会い、ありがたい言葉も頂いた。』。



~つづく~

= 海外研修通信 = I'm possible

令和6年3月14日(木)

第2号

室蘭清水丘高校

2月6日(火)

「Redmond HS (レドモンド高校) 訪問」



教育水準が高いワシントン州の中でも、優秀な学校の一つであるレドモンド高校を訪問しました。今回も朝から7時間目まで一日中お世話になりました。こちらからは日本の文化や清水丘高校のことについてのプレゼンをしました。プレゼンは身振り手振りも加わり日本で練習していった以上に出来が良かったと思います。また、あるトピックに関して“自分の意見を述べる”という英語の授業にも参加させてもらい、そこでもしっかり自分の意見を述べていましたね。『怖がらずに話す』『自己主張をする』ということに慣れてきたのでしょうか。担当のカイパー先生は「室蘭の生徒は毎回積極的なので今後も交流を続けたい」と言ってくれていました。ランチはレドモンドの生徒とバディー（基本的に2人1組でのランチ）でしたが

どんな会話があったでしょう？今年もカイパー先生のおかげでいろんな機会をもらい、みんながその機会を積極的に活動していたのでとても有意義な時間になったと思います。

『この日はどんなことがあっても自分から積極的に交流しようと決めていたので、どんどん自分から話しかけた。Chiyo』『英語の授業では、先生の質問やそれに対する答えの内容が濃かった。』『プレゼンは楽しくできたので良かった！』『アメリカの高校生とインスタを交換したり、いろんなことを話した。』『一緒にランチをした人やその友達と日本のアニメの話しとかで盛り上がった。みんなノリが良かった。』『日本のお菓子はやはり人気だった。プレゼンは回数を重ねるごとに慣れた感じ。』『プレゼンは緊張したが、楽しんでくれているようで嬉しかった。日本の生徒とは違い、受け身ではなく自ら学習している姿に感動するものがあった。』『I made friends in Redmond HS! I was happy to dance “Otonablue” together!』『ランチは1対1で会話するのが大変だったけど、とても楽しかったし、いい経験になった。』

2月7日(水)

「Pike Place Market ワシントン大学 (UW) 訪問」

午前はシアトル NO1 の観光スポットであるパイクプレイスマーケットに行きました。ショップやレストランなどが立ち並ぶカラフルなマーケット。スタバの1号店もこのエリアにあります。『スタバ1号店に行った。フラペチーノと言ったつもりがカプチーノが出てきた。』『買い物をしていたら、現地のおじいさんに話しかけられて、そこで雑談できた。お薦めのお店も教えてもらった。』『ガムウォールでは、その通りだけ壁も床もガムだらけで日本ではありえない光景だった。』

午後はノーベル賞受賞者も数多く輩出している西の名門。UW の学生の案内で広大なキャンパスを見学しました。図書館はもちろん、あちらこちらで勉強している学生の姿を見かけました。大学生と話しをする時間も設けてもらい、ここでも生徒はいろいろ質問していました。

『学生がみんな真剣に取り組んでいてかつよかった。案内してくれた学生の方に質問できて、ためになることがたくさんありました。』『アメリカの大学に行きたいと思った。夢を見つけられた気がしたので、これからの人生頑張ろうと思った。』『日本とは全然違うものが見れてためになった。アメリカの大学も考えてみようと思った。』『I want to go to UW and study Drama in the future!』『UW は私が一番楽しみにしていた場所だったので、実際に見学して感動した。規模の違いを実感した。』『建物が歴史観あふれていてすごかった。』『図書館の大きさにドギモを抜かれました。』

2月8日(木)

「Amazon、航空博物館 訪問」

午前は Amazon の本社へ。球体が特徴的。なぜかバナナの無料配布もやっていました。残念ながら本社の中には入れなかったけれど、その代わりに本来はアプリがないと入れない Amazon Go (レジのないコンビニ) を体験してきました。午後は航空博物館の見学。広い館内には数多くの航空機 (かつて使用されていた飛行機や戦闘機から宇宙へ飛び出したアポロまで) 展示されていました。現物を間近で見ることができるので迫力満点です。

『吊るして展示されているスペースシャトルの下に潜れた時は本当にワクワクした。戦闘機について学べるコーナーで、塹壕の中を模した道があり、凄まじさを肌で感じた。いつかまた絶対行きたい。』『数多くの模型に加え戦争に関する展示が見られ、知識の一つとして残りました。』『音声もあったので自分が実際にその場にいるような気持ちになった。』

最後はゲストスピーカーの前田さんの講演です。前田さんは事故で右目の視力を失い、パイロットになるという夢をあきらめました。その後、様々ないじめや差別に苦しむ人生を送っていたところ、アメリカでは視力がなくてもパイロットになれることを知り、夢を実現させた不撓不屈の“不可能を可能にした男”です。その前田さんの“世界一熱い”プレゼンを間近で体験しました。『自分を前向きにさせてくれる話で良かった。正しい情報を持って将来を決めることの大切さを再認識させられた。』『とても感動した。もしまた海外に行く機会があれば、必ずもう一回聞きたいと思った。本当に感動した。Rio』『今まで深く考えたことがないことまで考えさせられて勉強になりました。』『“正しい情報を知ることが大事だ”という言葉で意識が変わった。』『色々考えさせられた。自分を見つめ直したいと思った。』『たとえ日本が自分の夢の邪魔をするなら、海外に行けばいい。とても自分の考えが変わった。Kaito』『Maeda’s speech gave me a big impact. “If we unprecedented, make it yourself (前例がなければ、自分で作ればいい) This word changed my mind!』



～つづく～

☆ 海外研修は英語オンリーだったので非日常を味わうことができた。みんな優しく英語がわからずに伝えることができない時も、ゆっくり話してくれて理解することができた。レドモンド高校の生徒は、みんな明るくて賑やかで楽しそうだった。高校の授業を受けた時、日本とは違って受け身ではなく、生徒に考えさせてそれを自分で言葉にして表現するという授業で楽しかった。前田さんの話しを聞いて、生きていく中で大切なことについて教えてくれて、とても参考になった。ホストファミリーが作ってくれたご飯はどれもおいしかった。インド系の人だったためいつも辛めだったけど、お昼のランチパックにカレー風味の皮がついたソーセージはとても美味しく、今でもその味が忘れられない。数年後にシアトルに行って、ホストファミリーと上手くなった英語で会話してみたいと思った。

☆ アメリカに行くまでは自分の英語力がとても心配でした。実際にアメリカに着いて、ホストファミリーとの会話に難しさを感じていましたが、お互いの家族や文化について話しているうちに徐々に慣れて来て、英語も少しずつ話せることができて楽しかったです。マイクロソフトで松本さんのお話を聞いて、将来の職業選択の方法、英語を学ぶ方法、夢を実現させる方法や会議などでは自分の考えをしっかりと伝えるということを学びました。前田さんのお話しでは、“夢は簡単にあきらめてはいけない”、“挑戦し続ける”ことを学び、今まで考えたことがないくらい深いところまで考えさせられて、いい経験をしたなと思いました。

☆ 今回の研修で、英語がうまく話せなくても、だいたいのことは通じることと、人に話しかける勇気をもらいました。自分は人に話しかけるのがあまり得意ではなかったのですが、今回アメリカ人とたくさん話せたことで人との会話の耐性がつきました。アメリカは何もかもが大きくて、その中に溶け込んだことで、心なしか自分もビックになった気がしました。いつかまたアメリカに行ってみたいと思いました。

☆ 最初は興味がなかったが、将来アメリカで働くことがなくはないかもしれないということで研修に参加した。ホストファミリーが迎えに来てくれた後、これが最初の1対1の英会話であったが、重要なのはリスニングであることが分かった。ホストファミリーの英語は、聞き取りやすく、恐らく易しい表現を使ってくれたのかなと思う。自分が話す時に使った文法や単語、発音はあまり正確ではなかったかもしれないが、頭の中で伝えたいことを素早く英語に変換するいい訓練になった。カルチャーショックとしてあったのは仕事での態度で、イヤホンを付けていたり飲み物を飲んだり、日本ではあまり考えられないことだが、自分にはそっちの方が合っていそうだった。アメリカのような働き方（表面しか見えてないけど）なら自分でも楽しくやれるかもしれないので、将来の選択肢の一つとして入れてみようかなと思った。



☆ 海外研修で得たものがたくさんありました。例えば、人との関わり方、何でも挑戦する姿勢、大学やこれからの生き方の選択肢など、自分の視野を広げることもできたのでとてもいい経験になったと思います。行く前は不安や恐怖、ドキドキなどですごく緊張したけど、友達や仲間と不安を共有したりできたので緊張がほぐれました。CAさんお手紙をくれたのも嬉しかったです。レドモンド高校では、服装や髪型が自由で、生徒一人一人の個性が生きていてとてもうらやましかったです。UWでは、見るものすべて懂れるものばかりでした。アメリカの大学にいる日本人にもすごく懂れました。アメリカの大学に進学するという選択肢も持ち、これからの高校生生活を頑張ろうと思いました。前田さんの話しがすごく感動してタメになりました。全人類に、人生で1回は聞いて欲しいと思いました。人生でもう10回くらいアメリカに行きたいです。そしてもう2回くらい前田さんの話しを聞きたいです。



☆ 行く前はホストファミリーと生活できるか不安だったけど、みんな優しく楽しく過ごせました。今回の研修で得たものは、人との関わり方や何でも挑戦してみる気持ち、自分のやりたいことを諦めないなど沢山あります。英語を話すのは大変だったけど、自分の言いたいことを理解しようとしてくれるし、助け舟をたくさん出してきて、本当にありがたいと感じました。今回アメリカに来ることがとても大きな挑戦だったと思うし、高校生だからこそできた経験だと思います。前田さんや松本さんの話しを聞くことができたのも、清水丘の生徒だからできた経験だと思いました。今までは、大学とかは日本しか視野に入れていなかったけど、アメリカも視野に入れようと思いました。今後はしっかり勉強して、自分のやりたいことに挑戦し続けたいと思います。

☆ 今まで海外に行きたいとか英語が得意だというわけではなかったけど、話しを聞いているうちに興味をもつようになり、両親に思い切って「行ってみたい」と言って本当に良かったです。実際にアメリカに行ってみて、自分の英語力の無さを痛感したけれど、調べても分からない時などはホストマザーが優しく教えてくれました。どんな小さなことでも笑顔で“thank you”と言うことを心掛けていたら、ホストファミリーと良い関係を築くことができました。簡単な英語でもアメリカの人たちとコミュニケーションが取れたことはとても自信につながりました。最終日の朝にホストマザーが “I want you to come again. I want to see you again !” と言ってくれたことがとても嬉しかったです。ホスト宅でたくさん迷惑をかけたけれど、いつも優しく助けてくれて感謝しきれません。この研修で本当にとくさんのことを学びました。この研修で学んだことや得たものを活かしてこれからの日常を過ごしていきたいです。そして、もっと英語を勉強して、いつかまたホストファミリーに会いに行きたいです。本当にこの研修に参加して良かったです。